

土砂災害時の救助活動のあり方に関する検討会（第2回）議事概要

1. 検討会の概要

- (1) 日 時 平成 26 年 10 月 1 日（水） 13：00～14：30
- (2) 場 所 丸の内永楽ビルディング 24 階 TOK24 A-01 会議室
- (3) 出席者（敬称略）

委 員 池谷 浩、大友 康裕、小林 恭一、土屋 智、内藤 正彦、長井 義樹、草場 秀幸、立石 信行、佐野 元康、大勝 道里、北原 広行（代）、今野 隆嗣、周防 彦宗、長堀 弘、濱中 延元、村田 吉伸

オブザーバー 新井場 公德、佐藤 敦

2. 内 容

- (1) 国土交通省から資料 1 に基づき、土砂災害現場における TEC-FORCE の対応について説明があった。（特に質疑等なし）
- (2) 事務局から資料 2 に基づき、災害事例等の調査結果について説明した。（特に質疑等なし）
- (3) 事務局から資料 3－1、3－2 に基づき、広島土砂災害を踏まえた今後の進め方について説明した。
（各委員からの意見）
 - 広島災害のような殉職事例は、他にどのくらいあり、どういう状況で起きたのか整理し、報告書に掲載すべき。
 - 広島災害で常備消防と消防団がどのように活動し、役割分担がどのようになされていたのか整理してほしい。また、消防団が今後、どのように関わり、安全管理を考えていくと良いかも示していただきたい。
 - 気象庁が出す降雨などに関する様々な情報を活用することによって何か消防として対応ができたのではないかとということもあるので、これらを整理し、報告書に取り入れてほしい。
 - 気象情報（土砂災害警戒情報、大雨警報等）の種類やその情報の意味、土砂災害に関する知識（土砂の流れる速度、温度、土石流が 1 回来たら終わりなのか、再度来るのか）などは、救助にあたる隊員は知っておくことが必要なので基礎資料として整理し、報告書に掲載すべき。
 - 対象災害の類型では、雨でも前線により長く連続する雨と一過性で終わる雨があり、また、地震は一過性だが火山は長期的となる可能性があるなど、起きる現象が色々あるので、対象現象の中身を整理しておくといい。

- 一般的に土砂災害は崩壊、地滑り、土石流と整理されているが、土石流でも水分量の多い泥流型と、土砂の多い砂礫型があり、堆積する場所、被害状況も違う。また、崩壊についても、地震、火山による崩壊は、比較的水分量が少ないので直下に落ちるが、雨による崩壊は流動化する。救助活動にあたり検索場所の議論や装備に影響があるので、災害の現象、発生原因についてきめ細やかな整理が必要。

(4) その他

- 今後のスケジュールについて、広島市の調査が年内をめどという状況もあるので、1月中旬に広島の調査結果を報告する。また、検討会を1回増やし計5回とさせていただく。